

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
3【そなえる】	<p>⑮【東日本大震災津波の様子と被害の状況】</p> <p>平成23年3月11日に発生した、東日本大震災津波の様子と被害の状況について理解する。</p>	総合的な学習の時間

【題材】

- ・東日本大震災に関するDVD
- ・沿岸被災地における語り部による説明

【対象】

- ・第1学年（男子10名、女子9名 合計19名）

【実践の概要・詳細】

<事前>

- ・東日本大震災の状況について資料映像の視聴
- ・宮古市田老地区及び大槌町の現状と西和賀町との比較

<当日>

10月7日（火）

- 8:30 沢内中学校 発
- 12:00 浄土ヶ浜レストハウスにて昼食
- 13:00 浄土ヶ浜ビジターセンター見学
- 13:50 ビジターセンター 発
- 14:15 宮古市田老地区 着
- 14:30 宮古市田老地区での研修
 - ・防潮堤見学
 - ・語り部による説明
 - ・DVD鑑賞
- 15:50 田老 発
- 17:00 陸中海岸青少年の家 着
- 18:00 学習のまとめ
 - ・1日目の研修を記事にまとめる

10月8日（水）

- 6:30 起床
- 7:10 朝の集い
- 8:40 退所式
- 9:00 青少年の家 発
- 9:30 大槌福幸きらり商店街 着
 - ・大槌町内見学
 - ・語り部による説明
- 11:30 大槌町立吉里吉里中学校 着
 - ・震災募金の贈呈
- 12:30 釜石市内にて昼食
- 16:00 沢内中学校 着

<事後>

- ・研修の成果を個人新聞にまとめる



【授業の展開】

<事前学習>

- DVD視聴による感想発表
 - 被災地の状況について2～3名が感想を発表する。
- 被災地の現況予想
 - 被災地の現在の様子について予想し、発表する。
- 訪問する田老地区、大槌町の被災前後の状況について調査
 - 各班で分担し、人口や産業など、項目を設定して調査する。
 - 調査した内容を、学習シートに記入し、まとめる。



<事後学習>

- 副読本いきる・かかわる・そなえるから「できますゼッケン」を読む
 - 避難所での「できますゼッケン」について発表する。
- 資料から自分の印象を発表
- 自分ができるボランティア
 - 学校生活や被災地のためにできることを発表する。



<児童生徒の感想>

- ・田老地区や大槌町に行き、津波や地震はとても怖いと思いました。当時の話を聞くことで、津波の被害がとても大きかったのだと思いました。まだ少ししか復興が進んでいないので、わたしに出来ることをやっていきたいと思いました。
- ・田老地区は「日本の万里の長城」と言われる世界一の防潮堤があるにも関わらず、その防潮堤に頼ってしまった人は、亡くなってしまいました。わたしは、自然災害を甘く見てはいけないのだと思いました。また、語り部さんが言っていたように、「自分の大切な命は、自分で守る」ことや「逃げる場所を確認する」ことが必要なことが分かりました。わたしも、誰かに頼るのではなく、自分の判断で行動できるようにしていきたいと思いました。
- ・今回の研修で一番大切だと思ったことは、「『今までも』はあり得ない」「自分の周りにいる人をもっと大切にしてほしい」ということです。この二つの言葉は、震災を通して分かったことや、震災後の思いが込められている言葉だと感じた。このことは、人としてあたりまえのことだけど、人は忘れている。だから、わたしも大切にしていきたいし、他の人にも大切にしてほしいと思った。

<まとめ>

- ・事前学習として、DVDによる資料映像の視聴を行ったが、被災前との比較が難しいものとなった。また、被災当時と現在の復興状況との比較も難しく、復興がどの程度進んでいるのかを十分に理解できなかった。
- ・しかし、内陸部に住む生徒にとって、被災地を訪問し、復興の状況や震災当時の話を聞くことは貴重な経験であった。
- ・研修内容が、語り部による説明を聞く形が多かったため、自分たちで何ができるのか、被災地への負担がない状況での活動を今後取り入れることも検討する必要がある。
- ・学校の取組である「復興の日」を利用し、震災後の生徒の思いを継続させ、自分たちができることを考え、実行させたい。

<保護者の感想>

- ・これまでに家族で被災地を巡ったり、私が仕事で支援に行ったときの様子を話したりすることはありましたが、被災した方々の生の声を聞いたことは、震災の現実を知る貴重な機会となったと思います。この研修を通して受け止めた「これまで」の現実をもとに、「これから」どうあればよいか、自分に何ができるか、考えてほしいです。
- ・被災地のことは同じ岩手県に住んでいても忘れられてきていると思います。被災地はまだ何も変わっていない、何か出来ることはないのか？ 等、考えることができた貴重な研修だったと思います。
- ・震災から3年以上過ぎ、沿岸の事を思うことが薄れてきている中で、学校でこういう研修を行っていただいたことは、子ども達にとって改めて震災を思い出し、考えるいい機会だったと思います。その土地に行き、実際目で見て、そのとき見たこと、感じたことなどを学校内や家庭で話し合い、震災について考える機会を子ども達が沢山もてるようまた、研修していただきたい。